

平成28年度一般会計決算の状況（概要）

【一般会計収支状況】

一般会計決算額は、歳入が212億4,748万5千円（対前年度比1.8%減）、歳出が206億5,024万7千円（対前年度比0.3%減）で、差し引き5億9,723万8千円の黒字になりました。

そのうち3,451万9千円は、平成29年度に繰り越して行う事業の費用として必要なので、実質的な収支では、5億6,271万9千円の黒字となりました。

【歳入の決算状況】

自主財源（市が自主的に収入できるお金）の合計は73億1,785万6千円で歳入の34.5%を占め、このうち市民税や固定資産税などの市税が51億112万1千円で歳入の24.0%を占めています。

一方、依存財源（国や県によって額が決められ交付又は割り当てられるお金）の合計は139億2,962万9千円で歳入の65.5%を占めています。このうち地方交付税が60億4,765万1千円で、歳入の28.5%を占めています。

自主財源よりも依存財源が占める割合が高い決算状況であるため、地方交付税の動向、国庫補助負担金の増減など、国の施策により大きな影響を受けやすいため、行政活動の自主性と安定性に欠ける面もあるという点も考慮した行政運営が必要と言えます。

【歳出の決算状況】

歳出を目的別に分類した場合、構成比が大きいものから、民生費98億2,977万4千円（構成比47.6%）、総務費26億7,851万8千円（構成比13.0%）、衛生費23億2,502万4千円（構成比11.3%）、公債費16億2,070万9千円（構成比7.8%）、土木費15億1,951万6千円（構成比7.3%）、教育費10億1,796万円（構成比4.9%）、消防費6億5,550万円（構成比3.2%）等となっています。

対前年度との主な増減をみると、総務費において3億4,068万7千円の増、衛生費において2億4,765万3千円の減、教育費において1億3,565万4千円の減、公債費において1億3,325万7千円の増、民生費において7,908万3千円の減となっています。